

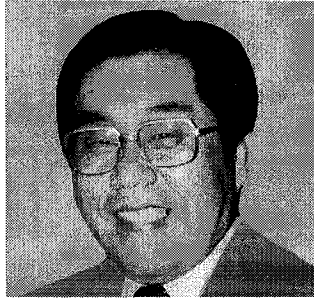
日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3291-5035 (総動員伝道内)
www.gospeljapan.com/dd/

聖霊と信仰に満ちる人

日本キリスト宣教会 松見睦男



「彼は立派な人物で聖霊と信仰に満ちている人であった。こうして大勢の人が主に導かれた。」
使徒十一章二十四節

立派な人、それはバルナバのことを指しています。立派な人と言われている言葉は「よい人」という意味で、これには三つの意味があります。一、善い人、良い管理者という意味のようです。使徒の働き四章三十二節より三十七節を読みますと、一切の物を私の物と言わず神の物と受け止め、それを忠実に管理する者としてバルナバが振舞っています。

二、ねたまない人、愛の人を指しています。「愛はねたまむことをしない」(第一コリント十三章四節) 神の恵みはねたまむことをしない愛として表されています。バルナバとパウロの関係において見られます。(使徒九章二十六節) クリスチャンたちはパウロを恐れ、「パウロのような人物を我々の交わりの中に入れることは考えものだ」と言ったのです。私たちもよくこのように取り扱ったことがあります。ところがバルナバはパウロを使徒たちの所へ連れて行きました(使徒十一章二十七節)。将来を望んで推薦したのです。

このアンテオケで初めて弟子たちがキリスト者と呼ばれるようになりました。

バルナバは敬虔な人で、使徒たちにも信頼されていた信徒伝道者です。彼は人々を激励し、多くの人々を導いた人です。彼は自分が中心になって働くよりも、私以上に賜物をもった助けの人が必要と祈りました。そのとき、パウロを思い出しました。そして、わざわざ、タルソまで出かけて、やっとパウロを探し出して連れ帰り二人で熱心に働きました。

この時、バルナバにねたまみがあれば、会いたくない、自分の影が薄くなると思ったでしょうが、それよりも「アンテオケの働きはとも自分で負いきれない」と思い、パウロに協力を求めたのです。

十一章三十節を見るとバルナバとパウロという順序になっっています。十二章二十五節、十三章二節もそうです。ところが四十三節を見ますと順序が逆になっています。バルナバはこの時から優位を失いました。キリスト教会における働きはパウロが中心となり、バルナバは傍らで嬉しそうに聞いています。彼の中にあつたキリストの愛によってバルナバはねたまなかつたのです。

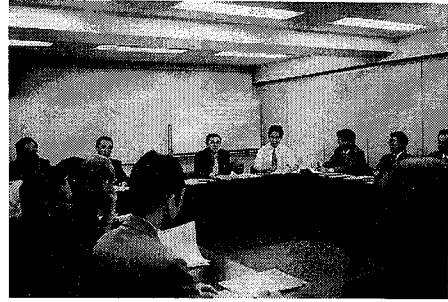
三、救霊の情熱があつたこと

彼は群れを導くだけにとどまらず(十一章二十四節) 出て伝道に励み、大勢の人々が主に加わるようになったのです。習慣的に人々を助けたという精神をもっていました。バルナバとは本名ではありません。両親がつけた名はヨセフでした。兄弟たちの間でいつも励まし、助け、慰めていました。ですから慰めの人(バルナバ)と呼ばれるようになったのです。

キリストのためなら何でもやる、夢中になる、そのような信徒を育て養いたいと願います。

諸伝道団体が主に祝され、用いられるようにと祈ります。

第十八回 定期総会報告



二〇〇二年四月十六日(火)午後二時～四時、お茶の水クリスチャンセンター四一五号室で第十八回伝道団体連絡協議会の定期総会が開かれた。開会礼拝において、村上宣道師がコリント第一、九章十九～二十三節よりメッセージを取り次いだ。

点呼がなされ、出席団体十六、委任状十三、加盟四十六団体の三分の一以上の出席が確認され、総会の成立が宣言された。議長に姫井雅夫師、書記に鈴木奈々姉を選出し、議事に入った。

一、二〇〇一年度活動報告、及び加盟団体訪問ツアーの出席が少ないこと、「協力」はいのちのことは社を通して、書店や外販教会へも配布していること等が報告され、承認された。

二、二〇〇一年度会計報告が以下のような説明の後、承認された。(ア)収入に関して、二〇〇一年度会費収入予算が四十四万円に対して、決算が三十六万円であった。これは八団体会費未納であったためである。(イ)研修会収入予算が二十五万円に対して、決算が十四万九千円であったのは、参加人数が十四名と少なかったことによる。(ウ)支出に関しては「協力」は予算と決算がほぼ同額であった。教

会団体訪問では、加盟団体訪問ツアーで一度だけ謝礼を払った。(エ)会費納入遅延による赤字という現実であり、解決されねばならない課題である。

三、会計監査報告として、帳簿、通帳、残金等を調べたが、いずれも正確、適正であったと報告され、承認。

四、二〇〇二年度活動計画案が説明され、一泊研修を今年は一日研修とすること、加盟団体訪問ツアーを継続すること、新たに教会訪問を実施することが承認された。本田弘慈師の合同葬儀について伝道協が共催団体になっているがお花料十万円を払うのは、予算的に困難であるため、繰越金や慶弔費から五万円程度を捻出することに決定。

五、二〇〇二年度会計予算案が説明され、上記合同葬儀のために支出慶弔費を五万円に変更、会費収入予算四十三万円は全加盟団体が二〇〇二年度会費を納入したものと考えてのものであり、達成は厳しい見込みである。前年度会費、前々年度会費未納入団体もある。以上の報告があり、予算案が承認された。

六、伝道協規約改正案が役員会より提出され、説明がなされた。第七条「三年間会費を納めず、総会にも出席のない場合は加盟継続の意志無しを確認の上、脱会とみなす」の変更部分とその他の改定部分もあわせて承認された。

七、二〇〇二年度役員が紹介され、承認された。顧問は羽鳥明師一人となり、ライフミニストリーズの竹原淑夫兄に代わって、国際ナビゲーターの洪沢浩二師が常任役員となった。浅見鶴蔵兄は二十一世紀訳聖書刊行会が伝道協に加盟することが望ましいが、しない場合でも役員として迎えることに決定した。洪沢浩二師の祈祷をもって終了した。

伝道団体訪問ツアー

日本キャンパスクルセード



五月九日、ゴールデンウィーク中の暑さとは打って変わり少々肌寒い日、第四回目的伝道訪問ツアーに参加させて頂きました。今回の団体は、日本キャンパス・クルセード(以下、JCCC)。

八団体(ライフミニストリーズ、百人の福音、日本聖書協会、小さな命を守る会、国際ナビゲーター、総動員伝道、EHC、JIFH)十名の参加者が与えられ、この機会がJCCCをより知り、参加者間の良き交わりになったことは言うまでもありません。実を言いますと、私は大学時代にJCCCの働きを通して信仰が与えられ、育まれ、信仰の訓練を受けました。ですのでJCCCに対しては自分なりの思い入れがあり(しかも最近では失礼ばかりで)、訪問先がJCCCと聞いて、是非参加しなくてはとの思いになりました。JCCCの事務所がOCC(当時はOCCでした)にあった頃は毎週のように出入りしていた頃を懐かしく思い出しました。応対して下さったのは栗原一芳代表とステイブ・クラーク事務局長のお二人で、丁寧にご紹介を下さいました。私に関わらせて頂いたときより益々宣教の働きが広がっています。東京だけでなく日本各地へ、大学生伝道は勿論のこと、社会の各方面への種蒔き



と刈り取りがなされて頂きました。今緊急の祈祷課題は、サッカー、ワールドカップ中、終了後の伝道ツールが諸教会を通して用いられること、今夏一般劇場で上映される映画「ジーザス」のために用があります。W杯作製の急ピッチで

進められているCDトラクトを見せて頂きましたが、最新技術が使われ、これは一見の価値が大いにあります。私の教会でも是非使いたいものです。一日でも早い完成を願っています（この文章が掲載される頃には使用しているでしょう）。

今年JCCCは四十周年を迎えました。途中、日本での働きを中断せざるを得ない厳しい現実を経験されたそうですが、主のみこころにより働きが再開され、日本宣教に用いられてきたことは感謝です。これからもJCCCが諸教会に任せ、諸教会がJCCCをより理解し、用いていくことを通して、福音宣教の御業が進められていくことを願って止みません。ありがとうございます。

（日本国際飢餓対策機構（JIFH）

溝口昌樹・記）

（今回は「いのちのことば社」本社訪問予定九月十九日（木）十三時十五分JR信濃町駅改札前集合。どなたでも是非ご参加ください。）

「四国福音放送伝道協力会」

桜井康生

略して「四放伝」呼んでいる当協力会が発足して四半世紀が過ぎました。これは海を隔てた大阪に事務所を置く「近放伝」から派生してできた協力会です。「この良いものを徳島から放送させていただきたい」と、これに賛同する有志牧師たちを中心に県下の教会に呼びかけて協力体制を整え、今日三十六の教会が加入して支援している。太平洋放送協会は五十年ほど前からこの地方にラジオを通して福音を届けてくれた。幾度かの返還を経て今日の姿になったものと思われる。

ウィークデーは五分間のものが流され、土曜日には「徳島世の光」と称して地元の信者さんたちの証し、牧師たちのメッセージを録音して聞いていただいている。日曜日には「世の光いききタイム」を過去三年ほど支援してきた。また、毎年「聴取者の集い」（ラリー）を行い、各個教会を会場にしたり、公の会場を借りて大会という形で実施してきた。経済的には、各協力教会からの地道で誠実な支援と、一部大口のCMスポンサー様に支えられて継続されてきた。

この協力会を運営するにあたり毎月運営委員会を開催している。その親密な交わりの中から「徳島宣教協力会」が生まれてきた。それは、何としてこの地方に福音を伝え、教会を強化させていたただこうとする熱い思いからである。三年に一回ほど伝道大会を開催する予定で、祈祷会や決起大会をして準備している。

ともあれ、私たちは「天からの激しい風」を待ち望んでいる。



四国福音放送

「近畿福音放送伝道協力会・近放伝」

代務者・渉外局長 吉木裕郎

この度「伝団協」に加盟する事になりました。早速「近放伝」の働きを紹介するようにこのことので概略を紹介します。一九七三年度に発足し、来年秋には設立三十周年を迎えます。当時PBAの羽鳥明先生がテレビによる福音伝道に関西にも起したいとの願いで初代実行委員長 堀内顕牧師と共に尽力され、以来、近畿における五百近い教会の協力を得て今日に至っております。働きとしては「教会協力による相互成長」を理念に掲げて、放送伝道を中心に下記の委員会をもつて運営がなされています。

一、メディア伝道（テレビ伝道・ラジオ伝道・インターネット伝道・フォロアアップ）

二、教会協力（セミナー・結婚のための出会いの場・協力伝道・祈りの運動・国際協力放送支援ラリー）

三、総務・財務（事務・財務・広報宣伝・渉外）

四、協力推進（協力推進・支援会・ボランティア）

これまでも一九八〇年「ビリー・グラハム大阪国際大会」、八十四年「レイトン・フォード国際大会」等の国際大会の受け皿としての役割を果たしたり、内外の講師を招き教会成長セミナーを先駆けて開いたりしてきました。今後も放送伝道を柱にしながら「教会協力による相互成長」の理念のもとに、例えばインターネットを伝道のためにどう活用していくか、というような時代のニーズにあった方策を視野に入れながら何とか教会協力の業の祝福に与りたいと願っております。この二、三年のうちに事務所のある大阪クリスチャンセンタールが新築されることとなりました。三十周年という節目を迎えるにふさわしく主は器をも整えて下さるうとしておられるようで感謝です。



近放伝

●日本CCC

「ジーザス」が銀座の劇場で八月三日より公開されることが決定！プロモーション用のJ-サイト (www.jesusnovinet) も公開中。お祈りください。

●総動員伝道

新教材が刊行されました。それを用いて「指導者講習会」をしています。各地区や教会で用いていただけるようにと願っています。W杯後の伝道が祝されるようお祈りください。

●日本伝道者協力会

会長の本田弘慈師が召されました。四月十九日に一日セミナーを土浦めぐみ教会を会場に持ちました。八月二十六〜二十八日に伊香保でリトリートと総会を予定しています。

●日本聖書協会

らい予防法廃止に伴い、『口語訳聖書』本文中の「らい病」表記を全て訳語変更することに決定しました。変更箇所一覧は <http://www.jbhe.jp/> に公開中。

●こころの友伝道

第四十九回「こころの友伝道」全国大会案内時・八月二十七(火)〜二十九(木) 所・シーサイドホテル 舞子ビラ神戸 主題聖句・ローマ十章十五節

●国際ナビゲーター

「米国から若い短期宣教師十八名を迎え、日本の六つの大学に派遣し伝道活動を支援するサマー・インパクト・ジャパンが六月から始まり、七月中旬にはコミュニケーションスタッフの折りのカンファランスが4日間軽井沢でもたれ

ました。

●J.R.高校生聖書伝道協会

六月からは多忙な時期です。法人年会、その後、関東と関西の全部の集会の場所、'Let's Be Friends'のシリーズ伝道会のために五チームが奉仕します。

●小さないのちを守る会

生命軽視と性の乱れの波が教会内にまで押し寄せてきています。宣教の急務と救霊の思いに迫られて、徹底な悔い改めと新生を語り、聖書の愛を実践しています。

●お茶の水クリスチャン・センター

伝道集会フライデーナイトを第二・第四金曜日に開催しています。又、中高生専用の英会話教室を通し福音を伝え、夏のアメリカホームステイを募集中です。

●日本国際飢餓対策機構

七月下旬より海外ワークキャンプ開始。エチオピア、インド、ペルーなどで各参加者がしつかりその現実を見つめ、学び、その後の歩みに活かされますように。

●EHC

韓国CCC派遣の青年五名が九州の教会未設置市町村で、戸別配布伝道を行なっています。今年中に九州の未伝道地域での伝道を完了する予定です。

●いのちのこは社伝道グループ

八月十日(土)午後、恵みシャレー軽井沢・屋外にてゴスペル・アンド・ジャズフェスティバルが開催されます。近辺の住民を含め、軽井沢を訪れる多くの方々への伝道の良き機会となりますように。

・次回伝団協訪問ツアー「いのちのこは社」予定
九月十九日(木) 十三時十五分
J.R信濃町駅改札前集合

・研修会のご案内(予定)

日時：十一月十五日(金) 十三時〜十九時
場所：お茶の水クリスチャンセンター

第一部 講演会

「閉じこもり、心の病から立ち上がる」

第二部 発題・分科会

(水谷恵信師予定、他音楽奉仕者)

その他、九階ロビーにて各伝道団体よりブース出展予定。詳細は後日案内を配布予定。

(伝道団体連絡協議会とは)

キリスト教界には大きく分けて二つの分野があります。キリストの十字架の血によって罪赦された人々の集まりとしての「教会」と、クリスチャンになった者たちがそれぞれの使命をもって専門的な分野で伝道活動、福祉活動などを行っている「伝道団体」です。この二つはともに協力し合って神の福音を伝え、神の国の拡大に務めています。教会と伝道団体はともに助け合う必要があります。伝道団体がバラバラに活動していたのでは、教会にとって協力しにくいし、伝道団体相互にとっても力を欠くこととなります。そこで連絡のために一つになろうと「伝道団体連絡協議会」が生まれました。現在は約五十の団体が傘下にあります。(伝道の手段階別・対象別(子ども、中学生、高校生、大学生、社会人、婦人など)による団体など)。

発行日 二〇〇二年七月三十一日

発行者 村上宣道

編集者 萩生田充